

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第1部門第2区分
【発行日】平成18年10月26日(2006.10.26)

【公開番号】特開2004-261578(P2004-261578A)
【公開日】平成16年9月24日(2004.9.24)
【年通号数】公開・登録公報2004-037
【出願番号】特願2003-321926(P2003-321926)
【国際特許分類】

B 2 6 B 19/04 (2006.01)

【F I】

B 2 6 B 19/04 A

【手続補正書】

【提出日】平成18年9月8日(2006.9.8)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

外刃およびモータ駆動機構を備えるドライタイプの剃刀のための内刃組立体であって、
前記内刃組立体が、
前記駆動機構によって往復運動するように構成されるとともに第1の刃エレメントを有している第1の内刃と、
前記第1の内刃に対して変位するように前記第1の内刃の内側に配設されるとともに、
前記第1の刃エレメントと交互に配置される第2の刃エレメントを有した第2の内刃と、
を有していることを特徴とする内刃組立体。

【請求項2】

前記第2の内刃が第1の内刃に取り付けられていることを特徴とする請求項1に記載の内刃組立体。

【請求項3】

前記第2の内刃が前記第1の内刃から独立して取り付けられていることを特徴とする請求項1に記載の内刃組立体。

【請求項4】

前記第1および第2の内刃が、前記往復運動方向に移動可能な支持ブロック上に支持されていることを特徴とする請求項1乃至3のいずれかに記載の内刃組立体。

【請求項5】

前記第2の内刃が前記第1の内刃の内側に入れ子にされ、
かつ前記内刃組立体の外周が、交互に配置された第1および第2の刃エレメントの周縁によって形成されていることを特徴とする請求項1乃至4のいずれかに記載の内刃組立体。

【請求項6】

少なくとも往復運動方向の一方向において前記第2の内刃の刃エレメントを前記第1の内刃の刃エレメントと接触するように付勢するための磁石をさらに備えることを特徴とする請求項1乃至5のいずれかに記載の内刃組立体。

【請求項7】

複数の開口を有している外刃と、
前記外刃に隣接する、請求項1乃至6のいずれかに記載の内刃組立体と、

前記内刃組立体を往復運動方向に交互に動かすためのモータ駆動機構と、
を備え、

前記内刃組立体の第1の内刃が、前記往復運動方向に駆動されるように前記モータ駆動機構に連結されており、

かつ前記第1の内刃の往復運動に応じて前記内刃組立体の第2の内刃が前記第1の内刃に対して往復運動するように、前記第2の内刃が前記往復運動方向において前記第1の内刃に対して動くように取り付けられていることを特徴とする剃刀装置。

【請求項8】

前記第1の内刃が第1の付勢要素によって前記外刃に向かって付勢され、

かつ第2の内刃が第2の付勢要素によって前記外刃に向かって付勢されていることを特徴とする請求項7に記載の剃刀装置。

【請求項9】

前記第2の付勢要素の第1の端部が前記第1の内刃に接続され、

かつ前記第2の付勢要素の第2の端部が前記第2の内刃に接続されていることを特徴とする請求項8に記載の内刃組立体。

【請求項10】

前記第1および第2の付勢要素のそれぞれの第1の端部が支持体に接続され、

かつ前記第1および第2の付勢要素のそれぞれの第2の端部が前記第1および第2の内刃にそれぞれ接続されていることを特徴とする請求項8に記載の内刃組立体。

【請求項11】

第1の内刃および第2の内刃を有した内刃組立体を備える剃刀装置を用いて毛剃りする方法であって、

前記第1および第2の内刃が交互に配置された刃エレメントを有しており、

外刃と共に毛をせん断する関係において前記内刃組立体を往復運動させる段階と、

第1の往復運動方向において前記第1の内刃を第2の内刃に対して移動させ、それによって移動する前記第1の内刃が前記第2の内刃を乗せて運ぶとともに、前記第1の内刃の継続的な動きが、前記第1の往復運動方向において前記第2の内刃が前記第1の内刃と共に動くことを強制する段階と、

第1の内刃の移動方向を反転させ、それによって第1の内刃の継続的な動きが前記第2の内刃が反対方向に動くようにさせる段階と、

前記外刃と前記内刃組立体との間で毛を切断する段階と、
を備えることを特徴とする方法。